

日本語の語彙力、文法力を高める指導の工夫

～体験と言葉をつなげる活動の工夫を通して

N 市立 A 小学校 高良 千恵子 (2021. 11)

1 はじめに

N 市の小中学校には、言語学級のほかに難聴学級が 11 学級（小 7 学級、中 4 学級）設置されている。

本校では、現在在籍している 3 年生の児童 1 名の入学に合わせて平成 31 年に難聴学級が設置された。本校は今年度、難聴学級 1 学級に加え、知的障害学級 2 学級、自閉症・情緒障害特別支援学級 5 学級、肢体不自由学級 1 学級あり、特別支援学級は合わせて 9 学級設置されている。

2 子どもの実態

(1) 対象児 3 学年女児 小学校入学と同時に難聴学級に入級 在籍 3 年目

(2) 歩みの履歴

ろう学校は 4 歳まで在籍。その後、市立幼稚園を経て、N 市立 A 小学校に入学。同時に難聴学級が設置され入級。

(2) 聴力 左右とも 100 dB 以上の重度難聴。補聴器装用。

(3) ロジャー不使用。補聴器のみで学習している。

(4) コミュニケーション手段

口話+手話、指文字。交流学級（通常学級）では 1 年生の時までは口話を中心だった。コロナ禍でマスク着用のため、仲のいい友達には音声で思いを伝え、相手は指文字で答えるなどするようになった。交流学級では伝えたい思いを紙に単語や 2 語文程度で書くなどしてコミュニケーションをとっている。

(5) 児童の性格 行動の様子

- ・何事にも興味をもち、一生懸命取り組む。
- ・間違いを指摘されてもくじけることなく、正解するまで粘り強く取り組む姿が見られる。
- ・交流学級では、自信ある時は挙手し発表することができるようになってきた。
- ・仲のいい友達とはケンカをすることもあり、その際、意思疎通がうまくいかずトラブルになることもある。
- ・人見知り強く、自分から進んで交流する友達は決まっているが、当番などやるべき事は誰とでも協力して活動している。
- ・教科書やノート、体育着など身の回りの物を管理することが難しく紛失することが多い。

(6) 学習の状況（3 学年 11 月までの実態）

- ・教科書は全教科、当該学年の物を使用している。

難聴学級での学習

- ・国語・「言語事項」新出漢字や未獲得語彙はノートやドリル等で確認をしているが、漢字の読み替えなどの定着には時間がかかる。
- ・「読解」教材文はリライトしての読み取りを行っているが、時間がかかり登場人物の心情理解は難しい。
- ・算数・「数と計算」は全体的に理解できているが、数の構成や位取りのしくみ、系列、乗法や除法の仕組みの理解はやや厳しい。
- ・「量と測定」長さや量の理解や単位換算は学習した直後は概ね理解できている。また、実測させるなど概念の定着を図ることを大切にしている。時刻や時間の理解は厳しく日常生活でも繰り返し指導している。
- ・「図形」構成要素をはじめ、順序数なども理解できている。
- ・「数量関係」四則計算はできるが、その概念や相互関係の理解は厳しい。
- ・自立活動 語彙の拡充と日本語文法（助詞の用法、動詞、形容詞の活用）の学習。また、朝のショートタイムで構音指導を実施している。

交流学級での学習

- ・他の学習は交流学級で担任との T T で指導。全ての学習において担任が引率して手話や指文字、ノートテイクなどで情報の保障や学びの保障を行っている。
- ・P C や国語辞典を持参し、未習得語彙の意味を即座に検索し、語彙の意味が理解できるように支援。また、時には画像や動画を提示して語彙の概念を深めることや同時にその語彙に対する手話を検索し手話と日本語をつなげるようにしている。

3 指導目標

(1) 1、2 年時

体験活動の中で語彙の拡充を図り、日記指導と合わせながら物事の概念形成を図る。

(2) 3 年時

体験活動で物事の概念形成を図りながら、日本語文法（助詞の用法、動詞、形容詞の活用）の基礎を身につけ、自分の思いを言葉（音声や書き言葉等）で適切に表現することができる。


4 指導の実際

(1) 体験活動の充実

難聴学級入級時は、発語も少なく「野菜」や「果物」などの上位概念の言葉はほとんど理解できていなかった。そこで、実際に見る・触れる・においを嗅ぐ等という、言語獲得における原初的な活動を充実させ体験の中で実物と文字や手話、音声を繋げることでその物の概念を豊かに身につけさせ、抽象的思考の土台をつくる必要があると考えた。その際、知的学級で使用されていた教材を難聴児用にアレンジして写真と文をつなげメタ言語意識を高めた。

また、体験活動と合わせて言葉を分類、カテゴリー化しそこに付けられる名称を学ぶことで下位概念の言葉から抽象度の高い上位概念の言葉を身につけていくことができるように意識して指導した。

☆お月見団子作り☆

| 時間 | ねらい・活動・配慮事項 | 言語 |
|-----|---|--|
| 第1時 | <p>ねらい</p> <p>① 写真と文字を合わせて確認することで書記日本語の基礎を身につける。</p> <p>② メタ言語意識を身につける。</p> <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真と文字をつなげながらお月見団子作りとはどういうものか、又その工程を確認する。 写真に写る物の名前を確認する。  <p>配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真の様子をどのような日本語で表す事ができるのか一緒に読んでひとつずつ確認し書記日本語の基礎を育てる。 写真と文を別々にして、写真のみを掲示し、児童が文を読みながらマッチングできるかを試すことで、児童の文章力を把握することができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・はかり ・もちこ ・ビニール袋 ・計量カップ ・なべ ・ボウル <ul style="list-style-type: none"> ・はかる ・こねる ・丸める ・沸騰 ・冷やす ・すくう <p>順序を表す言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず ・次に ・それから ・最後に |
| 第2時 | <p>ねらい</p> <p>① 感触を表す言葉を知る。</p> <p>② 動詞のアスペクトを知る。</p> <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> サラサラとベトベトの感触を確かめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・さらさらしている ・軽い ・ベトベトしてきた |

・水の分量と粉の分量を考えさせることでお月見団子作りへつなげる。



(児童の感想発表)

最初はサラサラしていた。

お水を入れたらベトベトした。重くなった。

※教師が側について指文字で助詞を示している。

配慮事項

- ・オノマトペを使って粉の状態を表す言葉や水を入れていったときの粉の状態の変化を表す言葉などをその都度指導する。
- ・動詞を意識して指導する。

- ・べちゃべちゃしている
- ・もちもちしてきた
- ・粘土みたい
- ・ずっしりしている
- ・重たい
- ・おいしそう
- ・つまむ
- ・まとめる
- ・まとまってきた
- ・丸める
- ・触る
- ・かき混ぜる
- ・こねる
- ・運ぶ 等

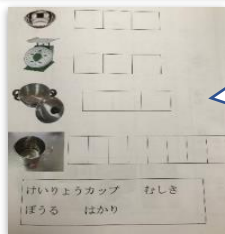
第3時

ねらい

- ① 買い物に行く商品を確認する。
- ② 材料、用具それぞれに必要な物にも名前がついていることを知る。

活動内容

- ・生地に使うもち粉をスーパーに買いに行くことを確認する。
- ・材料や用具それぞれに必要な物を写真で確認しながら、全ての物に名前がついていることを知る。



ワークシートは用具の名前を覚えることよりも「用具」というカテゴリーでくくれることを理解させるために活用する。

配慮事項

- ・実際の物を見て触って確認することで、そのものの概念が理解できるようにする。
- ・重さを表す単位や、水量を表す単位があることを知る。

- ・材料
- ・もち粉
- ・水
- ・用具
- ・はかり
- ・計量カップ
- ・なべ
- ・穴じゃくし
- ・ボウル
- ・さら

| | | |
|------------|--|---|
| <p>第4時</p> | <p>ねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自分で進んで情報を得る実践力を身につける。 ② 相手に聞こえる声で話すことができる。 ③ お店の商品もカテゴリーに分けられていることを知る。 <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もち粉の写真を持って近所のスーパーに買い出しに行く。 ・自分で進んで店員さんに声をかけ、買いたい品物がもち粉であることを伝え、商品を購入する。 ・無人レジの使い方を知り、持参したマイビニール袋に商品を自分で詰める。 ・店内も商品が分類され、カテゴリーに分かれそのカテゴリーに名称が付けられていることを見て学ぶ。  <p>配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出発前に質問の仕方や、相手に聞こえる声の出し方を確認する。 ・商品の写真を持参させ、伝わらなかったときには写真を見せればよいことを伝えておく。それにより不安を軽減させ買い物の意欲を後押しする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人に尋ねるとき言葉 ・すみません ・丁寧な言い方 |
| <p>第5時</p> | <p>ねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 工程表の文を読んでお月見団子を作ることができる。 ② 材料、用具の準備をする過程で分類や仲間づくりを意識する。 <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科室の壁面に掲示された文字と写真が一体となった工程表を確認しながら活動する。  | <ul style="list-style-type: none"> ・鍋 ・穴じゃくし ・鍋を火にかける ・沸騰してきた ・ぐらぐらしている ・湯気が出ている ・うきあがってきた ・沸騰する ・湯気が出ている ・水で冷ます ・団子が冷める |

店員さんに合図する。
(児童の発言)
すみません・・・。
これ・・・。
もち粉です。
ありますか？



- ・団子をすくう
- ・食器を洗う
- ・タレをかける
- ・テーブルをふく
- ・片付けをする

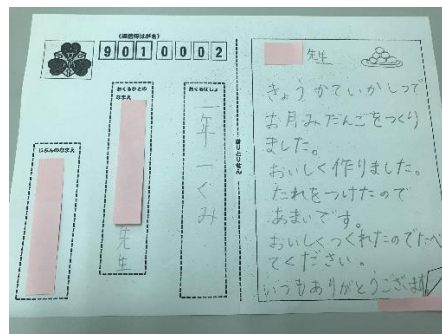
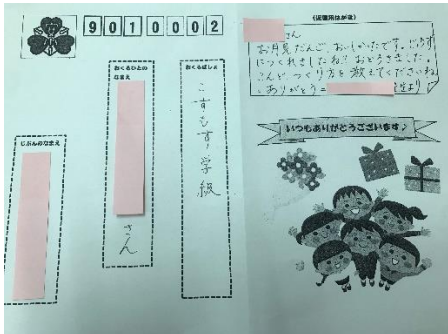
配慮事項

- ・手順に困ったときは工程表を見て、それでも分からないときは担任に聞くように伝えておく。
- ・ホワイトボードを活用してその都度言葉を指導していく。

第6時

ねらい

- ① はがきの基本的な書き方や用途を知る。
- ② 言語をつかって自分の気持ちが伝えられることを知る。



- ・いつも
- ・毎日
- ・昨日
- ・〇〇の時

動詞の活用

- (丁寧な言い方)
- ・作りました
 - ・食べて下さい

配慮事項

- ・交流学級担任へ日頃の感謝の気持ちをはがきに書き記し、団子をプレゼントする。その際、返信用はがきをつけて返信を書いてもらえるように事前をお願いしておく。
- ・丁寧な言い方を指導しながら書かせる。
- ・往復はがきを使うことで思いを伝え合う楽しさを味わい書記日本語への興味が育つようにする。

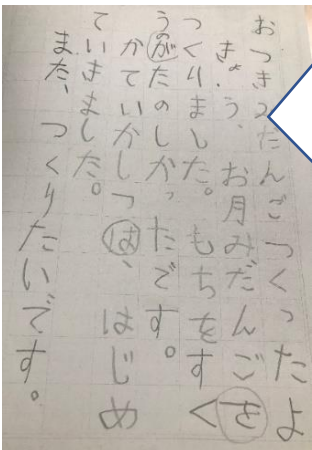
第7時

ねらい

- ① 助詞を意識して日記を書くことができる。
- ② 動詞の活用（過去形）ができる。

動詞の過去形

- ・つくったよ

| | | |
|--|--|--|
| | <p>③ 動詞の活用（丁寧な言い方）ができる。</p>  <p>児童の日記 題名 「おつきみだんごをつくったよ。」 きょう、お月みだんごをつくりました。 もちをすくうのがたのしかったです。 かていかしつは、はじめていきました。 また、つくりたいです。</p> <p>留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き始めに5W1Hを意識するように声かけするが、児童の書きたい思いを受け止め、自由に書かせる。 ・語彙や文法の間違いは書き終わってから訂正する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・つくりました ・楽しかった ・行きました <p>訂正箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おつきみだんご か つくりました。 ・もちをすくう か たのしかったです。 |
|--|--|--|

☆ムーニー作り☆

| | | |
|---|--|--|
| <p>第1時 文を読み取って工程表の並び替えができる。</p> | <p>第2時 文を読んでムーニーの葉っぱをゲットすることができる。</p> | <p>第3時 茎からひもを作る過程で語彙の拡充を図る。</p> |
|  <p>配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文は児童の理解の程度に合わせて2～3語でまとめておく。 |  <p>配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 3語程度の文で葉っぱの在処を記す。 |  <p>配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 「うつ、さく、乾かす、トントン」など、動詞やオノマトペを意図的に指導する。 |
| <p>第4時 材料や用具のカテゴリーが分かり、ワークシートを完成させる。</p> | <p>第5時 文の内容を読み取りムーニー作りができる。</p> | <p>第6時 交流学級の先生へお礼のはがきを書く。</p> |

ムーナーの作り方

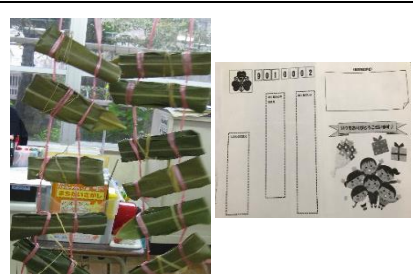
用具
はかり 計量カップ

材料
もち粉 水 蒸し粉 さいばし
カーサ(きのこ) ひも 水ワル 水切り

配慮事項
分類やカテゴリーを表す言葉を意識させる。



配慮事項
ホワイトボードを活用して動詞はその瞬間に指導する。



配慮事項
交流学級担任へ事前に返信のお願いをする。

☆野菜の栽培から販売学習へ ☆

| 野菜、小物販売学習 | | |
|---|--|---|
| 野菜の植え付け | 言葉の分類、カテゴリー化 | 常時活動 野菜のお世話 |
|  <p>たねを(を)る おなじ たね(を)する</p> |  <p>植物 はな やさい</p> |  |
| 販売する小物づくり | 野菜の収穫 | 販売学習の事前準備 |
|  |  |  |
| 販売学習本番 | 販売学習終了後の日記 | 交流学級で感想の発表 |
|  |  <p>助詞の適切な用法、動詞の活用 学年×100字+100字程度</p> |  |

☆ その他の体験活動 ☆

- ・ししまいづくり ・いかだ制作～いかだ体験
- ・カレーパーティー ・カラフルたまご
- ・しめ縄づくり ・クリスマスリース作り
- ・サーキットトレーニング ・栽培活動
- ・ホットケーキ作り ・暮れの町見学PP
- ・たこ焼きパーティー
- ・缶バッチ作り 等



知的学級が使用していた教材を難聴児用にアレンジし体験活動は全て写真と文を合わせて指導した。

体験活動の結果から

各種発達検査の結果 (3年・8月)

- ・WISCIV・評価点「類似」14、「単語」7、「理解」13 VIQ107
- ・太田ステージ 「保存の概念」通過 「包含の概念」通過
- ・「サリーとアン課題」通過
- ・リーディングテスト 1・2年用 ()

【成果】

- ・言葉の関係を考え、分類したり、仲間作りをしたりする思考方法を身につけることができるようになり、言語に対する記憶の生産性があがった。
- ・言葉を分類、カテゴリー化する活動を繰り返したことで基礎語から下位概念、そして上位概念の言葉への言い換えが自然とできるようになり抽象的思考の土台が整ってきた。
- ・物事の内容が深まり、共通概念や比較概念が育ち、新しく出会った物に対して類推する力がついてきた。それにより、初見の物事に対し即時マッピングが起こり語彙爆発が起こってきた。
- ・発達検査の結果から、抽象的な思考が可能になる「具体的操作期 (ピアジェ)」まで伸びたことが確認できた。



日本語文法の指導を意図的・系統的・計画的に取り入れていく

(1) 語彙の拡充

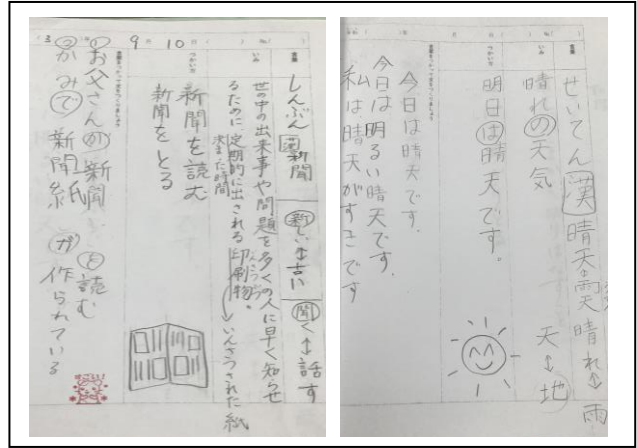
① 多重符号化

多重符号化による効果は、井上智善 (2016) によると「情報を理解したり記憶したりする認知能力が単一言語使用に比べて優れている」とある。未獲得語彙の学習において、文字、指文字、手話、音声などで多重符号化を行うことにより音韻意識やメタ言語意識を高め、言葉を理解したり記憶したりする力を高める。

② プリント学習

どの語にも共通してある言葉、意味、使い方（辞書に掲載されている使い方）文作りを形式として書き込めるプリントを用意する。それに加え、下記の項目があるものは書き入れていく。ひとつの言葉をネットワークで学習することで質の高い語彙の獲得をねらう。更に、生活の中であふれる言語について自ら学ぶ素地をつくることができるようにする。

- ア 未獲得語彙
- イ 辞典に載っている定義
- ウ 辞典に載っている例文
- エ 漢字表記
- オ 写真や絵
- カ 反意語 例) 出席⇔欠席
- キ 対義語 例) 男性⇔女性
- ク 類似語 例) 修正⇔訂正
- ケ 同義語 例) お風呂=浴室
- コ 児童の生活にちなんだ例文づくり



(※語彙を自分のものにするために最も大切にしている活動)

③ 確認テスト

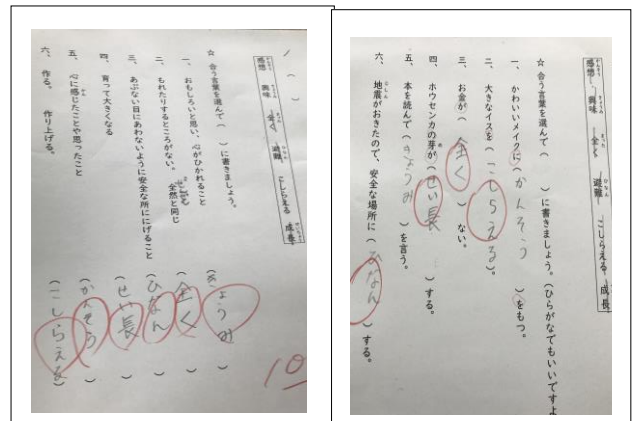
- ・語彙とその意味が書かれた文をマッチングすることができるか。
- ・文の中に当てはまる語彙を適切に挿入することができるか。

※確認テストは今後の指導の手がかりとする。

④ 日常生活の中で

文を読むためには幅広い知識、語彙が必要である。そこで、日々の生活の中で出てきた言葉を教師が意識して意図的に言い換える。

- 例) 広い → だだっ広い → 広大な
- 例) 歩いて行く → 徒歩で行く
- 例) 学校に行く → 登校する



(2) 日本語文法の指導

*J.COSS 日本語理解テスト

2021年5月(小3時) 通過項目数8項目(年長レベル)

⇒基礎的な語彙が習得された段階。助詞の理解が今後の課題。

*助詞テスト 46点 ⇒「が、を、に、で、と」などの格助詞の運用が課題。

課題

・助詞の用法…助詞を理解していないと文の読み取りは困難。助詞手話記号等で指導していく。

・動詞の活用・・・動詞活用表を用いて指導していく。

① 助詞の指導

(ア) 助詞記号

助詞「が」と「を」の指導においては、動作の主体や主語となるものにつくことを押さえ、指文字でもその場で助詞を意識付けながら会話するが、指文字は消えてしまうので、手製の助詞記号を作成し、生活の中で使用する。そうすることで助詞相互の関係性が理解できる。



(イ) 助詞手話記号

助詞の意味の理解を促すために視覚的に捉えやすい手話助詞記号を使って文を作る練習を繰り返す。どうしてその助詞になるのかを見童自身が考え文を作る事で助詞の意味を理解し使用できるようになる。

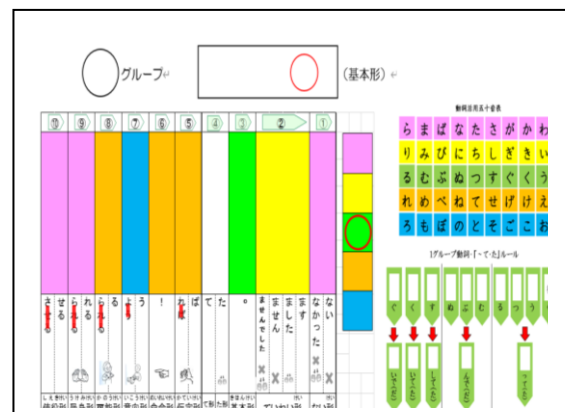
② 動詞の指導

(ア) 動詞集め

聴覚障害児は動詞の語彙の拡充が常に課題だと言われている。そこで、生活の中から動詞で表される場面をその場で文字に書いて指導していく。新しく学習した動詞は定着するまで掲示したり、教師が生活の中で意図的に使用したりする。その際、動詞の基本形（終止形）はウ段で終わることを指導し、新出の動詞を指導する際は必ず基本形を押さえる。

(イ) 動詞の活用

「大塚ろう学校版動詞活用表」を使用し動詞の活用の仕方を学ぶ。活用ルールが定着するまで、朝のショートタイムや宿題などで継続して指導し、普段の会話の中でも見童に動詞を意識させる。



5 授業実践

(1) 目標

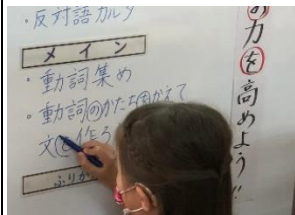



・動詞の活用の仕方が分かる。

(2) 授業仮説

・動詞活用五十音表やお助けカード等、視覚的に児童の学びを支援する教材・教具を取り揃えることで動詞の活用の理解につながるであろう。

- ・動詞活用表をつかって文作りを行うことによって理解の定着が図られるであろう。

(3) 本時の展開 (第10時)

| | 学 習 活 動 | 指 導 上 の 留 意 点 | 評 価 項 目 (方 法) |
|----------------|--|---|---|
| 導 入 5 分 | <p>1 はじめのあいさつ</p> <p>2 今日の学習の流れを知る</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・手話や指文字を使い助詞抜けがないかなど、文法面も確認しながらあいさつをする。 ・ホワイトボードで今日のメニューを確認する際、助詞を意識させるために助詞に丸付けをする。 |  <ul style="list-style-type: none"> ・反対語カード ・メイン ・動詞集め ・動詞のかたちをかえて文を作る |
| 展 開 35 分 | <p>3 ウォーミングアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反対語かるた  | <ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら反対語のある動詞、形容詞の理解が図られる様に児童の反応を待ちながらゲームを行う。 ・「押すの反対は?」「引く」と答えさせながらカードを取らせることで動詞の定着が図られるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・反対言葉が理解できているか。  |
| | <p>4 メイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動詞集め ・動詞の活用  | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきた動詞を思い出せるように動作化も交えながら動詞カードに記入する。 ・動詞活用五十音表のどの段を見て記入するかを確認する。 ・活用お助けカード(日本語文法による活用の表)等の視覚教材をつかって理解できるようにする。 ・文作りのプリント学習では多語文になるように声かけをする。 ・動詞の活用のみならず、助詞の用法が適切かを意識させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本の形(終止形)で動詞集めができているか。 ・動詞の活用ができているか。 ・助詞の用法は適切か。 <p>【6、コミュ(3)】</p> |

| | 学 習 活 動 | 指導上の留意点 | 評価項目（方法） |
|-------|--------------------|--|--------------------------|
| まとめ5分 | 5 学習のふりかえりを する。 | ・今日、どんな学習をしたのか、どんな言葉が分かるようになったのか等を児童とやりとりしながら文章で表すことができるように支援する。 | ☆気持ちを表す言葉をつかって感想が言えているか。 |

(4) 授業研究会

授業者の説明

- ・これまで日記指導等で助詞の用法や動詞の活用について指導してきたが思うように効果が出なかったことから、3年生8月より木島照夫氏（元大塚ろう学校教諭）にバックアップしていただきながら系統的な指導を取り入れている。
- ・今日の授業の文づくりでは、助詞の誤りがひとつもなかったことには驚いた。学習の成果が出てきたと感じている。
- ・文づくりの3回目で動詞の活用の誤りが出たことで、児童の課題（動詞の語形変化）が参観者と共有できてよかった。
- ・児童の課題を明らかにするためには、各種検査の見取りを的確に行うことが大切だと考える。また、そこから見えてきた課題にどう対処すべきかを指導者がしっかり学び、適切な指導・支援につなげていくことがとても大切だと感じた。
- ・「準ずる教育」とはいえ、教科書の指導を進めながら助詞の理解ができていない児童へ助詞等、文法指導にも力を入れて指導するのは難しい。こうした状況から、交流学級での学習も全て担任が引率して情報保障、学びの保障をしなければならないと考えている。しかし、難聴学級の児童が複数になった時、それをどう保障できるのかが課題である。

参観者からの感想及び助言

- ・品詞名で指導しているが、小学生では難しいのではないか。（⇒品詞の分類もことばのカテゴリ分けと同じ。本児はすでにことばの概念カテゴリーについて学習してきており理解可）
- ・難聴児には手話を言葉に変換する時とか、「通じるように」との思いなどから、つい「おいて」などの短い言葉で指示しがちだが、「おいて下さい」と丁寧な言葉を意識して授業をすることがのぞましいと感じる。
- ・特別支援も系統的に指導していくことが大切なのでそれができていると感じた。
- ・ペーパーサートなどさっと取り出せる教材教具があって児童の学びを手助けしているのがよかった。
- ・聴児が普通に身に付けていることが難聴児には身につかないことがたくさんある。それを指導する担任はもっと大変だと感じた。
- ・今回の授業で取り入れた「新日本語チャレンジ」を活用して、共通実践すると良いと思う。

6 成果と課題

(1) 成果

- ・児童のアセスメントを様々な検査等で行ったことで児童の実態を多面的に把握することができ、よりの確かな指導・支援に結びつける事ができた。
- ・普段の何気ない会話や掲示物等を見て「走っているは動詞！基本の形は走るだね。」と動詞の活用を意識するようになった。
- ・文を書く事への抵抗が少なくなり、進んで日記を書いてくるようになった。
- ・助詞を考えるときに「どこに？だから、この助詞は‘に’だ。」と、掲示されている助詞手話記号を見て正誤を確認するようになった。
- ・言葉に自信を持ったことから交流学級での学級会で司会に立候補し、シナリオを見ながら会を進行させることができた。
- ・1学期終業式（10月）では、1学期頑張ったことの発表者に立候補し、言葉の勉強を頑張っていることについて校内放送（コロナ禍のため）で発表することができた。
- ・7月には自分の障害について「聞こえるようになりたい。」と話していた児童が、10月には「聞こえない方がいい。聞こえない子が勉強する名詞、動詞・・・言葉分かるから。」と自らの障害を受け入れる発言が出てきた。
- ・これまで人前では「恥ずかしい」という理由で手話をすることを拒んでいた児童が、10月から交流学級で「手話講座」と題して毎日一つの手話を紹介する活動を始めた。

検査結果

（5月） 生活年齢 8歳5ヶ月

- ・絵画語彙検査 語彙年齢 4歳7か月 評価点1（明らかな遅れがみられる）
- ・jcross 日本語理解テスト 第2水準 通過項目8項目（年長レベル）
- ・助詞テスト 48点

（11月） 生活年齢 8歳11ヶ月

- ・絵画語彙検査 語彙年齢 8歳5か月 評価点10（平均レベル）
- ・jcross 日本語理解テスト 第7水準 通過項目19項目（高学年レベル）
- ・助詞テスト 78点

（2）課題

- ・児童の日本語力向上の為には家庭の協力が不可欠であるため、保護者への働きかけを工夫する。
- ・言語の発達と共に障害認識の課題が出てきたので、今後は日本語の指導と共に、障害認識を含めた指導も進めていく。
- ・語彙力や文法力に課題があるので、国語を当該学年の教科書で教えるには多くの時間を要する為、全ての単元を網羅するのではなく、全ての領域をおさえた上で教材の精選が必要である。
- ・難聴児への指導、とりわけ文法指導を含めた言語指導は担当ひとりで学ぶにはとても難しい。具体的指導技術向上の為に校内や研究会で学びを共有し合う研修会等を行うことが必要と考える。
- ・文法指導と合わせて、論理的な文章が書けるように「起承転結」を意識した日記指導を取り入れていく。

7 おわりに

今年度は本児の言語の課題である、語彙の拡充と日本語文法に焦点をあてて指導している。

これまで、日記指導や文作り等で助詞の間違いを教師が指摘して児童に直させる指導法でやってきたが、同じ間違いを繰り返すばかりで文法力は一向に上がらなかった。そこで、元ろう学校教諭で難聴児支援教材研究会の木島照夫氏から、難聴児の言語発達について必要な手立てや日本語文法についての理論を学び、助詞手話記号等を取り入れるなど、視覚的に助詞の用法や動詞、形容詞の活用が理解できるように指導してきた。その効果はとて大きく、児童が助詞の用法や動詞の活用など日本語の文法について自信を深め、自己肯定感が向上したと分かる発言や行動の変容が見取れるようになった。

このことから難聴児の言語発達に関しては、意図的・系統的・継続的な言語指導が必要と考えるが、担当が頻繁にかわる現状では、指導を引き継いでも、なかなか意図した通りの指導を継続することが難しい。しかし、文法指導の目的が「日本語で書かれた教科書を読んで意味を理解することができる」という日本語の読解力の育成にあることを考えると、担当がかわっても一貫した指導が行えるように、校内、または、難聴言語研究会などで指導法や教材の使い方、各種検査等の見取り方について知識を深め、それを指導に生かせる体制をつくっておく必要がある。それにより、担当がかわっても系統的、継続的な指導が行われ、その積み重ねによって書記日本語の習得や向上、読解や自分の感情・思考を論理的な日本語で表現する作文能力といった実践的な力を身につけることができる。こうした途切れない指導により、児童の日本語活用について自立的能力の基礎が備わり、他者と積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と技術も高まっていくであろう。更には、読書という自分で選んで本を読む力が備わることで、自己の生活を豊かにしていくことが期待される。

本児に対する文法指導は始まったばかりである。今後は、絵画語彙検査や J.COSS 日本語理解テスト、難聴児支援教材研究会の文法テスト等を毎年行っていくことで系統的なアセスメントを行い、児童の言語力、日本語力を高める指導を継続していく。

主な参考文献

- 木島照夫 「きこえない子のための新・日本語チャレンジ！」 難聴児支援教材研究会
劔持弥貴・河合瞳・木島照夫 2015 「どうすればことばが育つか？『9歳のかべ』をこえる為に」
全国早期支援研究協議会
木島照夫・菅原仙子・岡野敦子 2020 「難聴児はどんなことで困るのか？—豊かな心とことばを育むために—」 難聴児支援教材研究会
矢沢国光 2019 「ことばはコミュニケーションの中で生まれ育つ」 ろう・難聴教育研究所
吾妻敏博 2016 「改訂版 聴覚障害児の言語指導 ～実践の為の基礎知識～」 田研出版株式会社
文部科学省 2020 「聴覚障害教育の手引 言語に関する指導の充実を目指して」 ジアース教育新社
文部科学省 2018 「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」 開隆堂出版
参考 WEB サイト



おすすめ本

